



3月新着本案内

愛知みずほ大学瑞穂高等学校
瀬木学園図書館

「ラオス：山の村に図書館ができた」安井清子著 (010.22/ヤ)



少数民族のモン族が住む、東南アジア・ラオスの小さな村に、子どもたちのための図書館をつくった日本人女性の奮闘記です。図書館づくりを思い立つきっかけとなった出会いから、建設、実際の活動、そして未来が綴られています。

「Think疑え!：知のトレッキング叢書」ガイ・P・ハリソン著 (141.5/ハ)



人に騙されたり、間違ったことを信じたりしない「よい懷疑主義」になるための思考方法が紹介されています。事実と虚偽を見極める「疑う=考える」技術。自らを騙そうとする脳のバイアスや、疑似科学への対処法を実践的に学ぶことができます。

「じぶんリセット：つまらない大人にならないために」



平凡な毎日をちょっと面白くする方法とは? 「もしも〇〇だったら」と空想しながら、日常の「あたり前」をリセットすることから始めてみよう! 新しい自分を発見できる、「もしもの魔法」を教えてください。

「地図で読む世界の歴史：ロシア」ジョン・チャノン著 (238/チ)



スラヴ民族の起源から、タタールの支配、ピョートル大帝とエカチェリーナ大帝を絶頂とするロシア帝国、ロシア革命、ソヴィエト連邦の崩壊までが、地図と図版でヴィジュアル的に解説されています。ロシア全史を読み解いてみよう。

「絶対に行けない世界の非公開区域99」ダニエル・スミス著 (290.9/ス)



世界には様々な理由によって「立ち入り禁止」エリアがあるそうです。米国疾病対策センター、燃えつづける町・セントラリア、バチカン機密文書館、伊勢神宮など。世界中の立ち入り禁止エリアが写真満載で地図と共に紹介されています。

「もしも学校に行けたら：アフガニスタンの少女・マリアムの物語」



長年続いた内戦、多国籍軍とテロリストの戦闘で多くの人が苦しい生活を強いられているアフガニスタン。タリバンがいなくなったことで学校に通えるようになった、少女マリアムの物語です。

「これでわかった!「超訳」特定秘密保護法」



明日の自由を守る若手弁護士の会著 (326.81/ア)
特定秘密保護法が施行されたら社会は大きく変わるかもしれません。だけど条文がややこしくて、いったい何を言ってるかわからない…。この本が、超~わかりやすい「訳文」と解説、イラスト、マンガで徹底説明してくれます。

「これだけ!高校数学」小島淳子著 (410/コ)



高校数学に関して、『まずは、これだけ!』というポイントに絞り、初めて学ぶ人や、学び直しの人でも全体像がザックリ理解できるように、できる限りやさしく解説されています。「とにかく、基礎・基本から」という人に向けた入門書です。

「図説世界史を変えた50の武器」ジョエル・レヴィ著 (559.02/レ)



石斧、中世の弩(おおゆみ)、大砲、カラシニコフ、ミサイルなど。豊富な図版とともに武器の技術仕様と、戦争における役割や歴史的遺産などが詳しく解説されています。過去3500年の人類の歴史を、武器を通して見るのも面白いかもしれませんね。

「紙つなげ!彼らが本の紙を造っている」佐々涼子著 (585.26/サ)



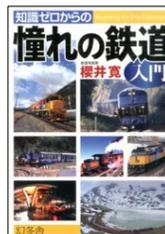
東日本大震災で被災した日本製紙・石巻工場。機能は全停止し、従業員でさえ復旧は無理だと考えた。しかし工場長は半年での復興を宣言。その日から、彼らの闘いは始まった。奇跡の工場再生を描いたノンフィクション。

「龍安寺石庭：謎深き庭：十五の石をめぐる五十五の推理」



細野透著 (629.21/ホ)
枯山水の石庭で知られる京都の龍安寺。石庭は十五の自然石からなり、その配石の妙は見る者の心を魅了します。なぜ、あのようにレイアウトされているのだろうか。十五の石をめぐる「五十五の推理」を集大成し、石庭に隠された謎に迫ります。

「知識ゼロからの憧れの鉄道入門」桜井寛著 (686.2/サ)



日本が誇る世界一の豪華列車「ななつ星」、大陸横断鉄道の王様「カナディアン号」。著者がこれまでに実際に乗車した世界の鉄道101列車が紹介されています。

「イラストで読む奇想の画家たち」杉全美帆子著 (723/ス)



ちょっと不気味で、妙に心に残る絵を描いた画家の人生とは? 我が道を行く奇才の画家たちのおもしろエピソードが満載です。豊富な作品とイラストでボス、デューラー、カラヴァッジョ、ゴヤ、ブレイク、ルドン、ルソーなどについて紹介されています。

「動物たちのおしゃべり」山崎陽子著/ミルコ・ハナアク絵 (726.6/ヤ)



今度はねこに生まれてほしいイヌ、ねずみを好きになったネコ、しあわせの青い鳥になりたいハト、立ち話が好きなイタチ。動物たちの無邪気な独り言、他愛のないおしゃべり、ひそかな祈りが描かれた絵本です。

「九年前の祈り」小野正嗣著 (913.6/オ)



【芥川賞受賞】35歳になるシングルマザーのさなえは、幼い息子をつれて、海辺の小さな集落に戻ってきた。息子を持って余しながら、さなえが懐かしく思い出したのは、9年前の「みっちゃん姉」の言葉だった。

「土漠の花」月村了衛著 (913.6/ツ)



ソマリアの国境付近。陸上自衛隊の野営地に、氏族間抗争で命を狙われる女性が駆け込んだ時、壮絶な撤退戦が始まる。なぜ激しく攻撃されるのか、自衛官は人を殺せるか? 男たちの絆と献身を描く。